

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		児童発達支援サービスゆれる		
		チェック項目	はい	いいえ
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	<input type="radio"/>	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	<input type="radio"/>	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	<input type="radio"/>	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	<input type="radio"/>	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	<input type="radio"/>	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	<input type="radio"/>	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	<input type="radio"/>	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	<input type="radio"/>	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	<input type="radio"/>	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	<input type="radio"/>	

適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○	

	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか。	○	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。		○
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。		○
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○	

	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○	
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。	○	
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	○	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○	
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○	
	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○	

非常時等の対応	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○	

公表日 令和7年2月27日

工夫している点	課題や改善すべき点
子どもたちがのびのび過ごすことができている。	
配置基準のほか、子どもの状態やプログラムに合わせて職員数を配置している。	
トイレがバリアフリーに対応できていない箇所がある。雨漏りなど今後環境改善が必要な箇所がある。段差をなくし、階段や手すりを設置して過ごしやすい環境を作っている。	トイレがバリアフリーに対応できていない箇所がある。雨漏りなど今後環境改善が必要な箇所がある。
清掃時間を定め、物が散乱しないように掃除、整理を心がけ、子どもたちが十分に活動できるスペースを確保している	
個室の相談室、休憩室を確保しており、子どもから要望があったときは相談し使用するようになっている。	
職員全員に情報が提供されるように、ミーティングが情報共有を徹底されている。	
昨年度のアンケートをもとに改善している。	
日報やミーティングなどを用いて情報を共有し、確認を徹底している。	
アンケートや保護者からの声、監査の際にいただいた助言をもとに改善を行なっている。	
月に一度は職員全員参加の勉強会を実施し、困難を抱えている子どもへの理解や新たな支援方法の発見、支援の改善に努めている。	

ホームページで公開している。	
ニーズを明確にして、中間評価をおこない随時、改善プログラムを反映している。	
職員全員が共有認識を持てるように徹底している。	
職員全員が共有認識を持てるように徹底している。	
日報やミーティングなどを用いて情報を共有し、確認を徹底している。	
設定している	
児童発達支援管理責任者とその子供担当の職員を中心に全員で行われている。	
日報やミーティングなどを用いて情報を共有し、確認を徹底している。	
子どもたちの成長段階を見極め、個別支援と集団支援を組み合わせ実施している	
始業前にミーティングを行っている。	
報告すべき事項はなるべく早く報告し、支援の気づきについては日報やメールリストを用いて行っている。	
上記同様に、日々の支援についての情報報告を徹底している。	

半年に1回以上のモニタリングを行っている。	
基本活動を子どもの状態やニーズに合わせて支援している。	
子どもたちが自発的に活動できるように、職員が過度な干渉にならないように徹底している。	
児童発達支援管理責任者と事業所長がミーティングに参加している。必要に応じてその他担任者も同行している。	
小学校には毎月、様子報告のメールを送り連絡を取り合っている。福祉課の連絡会議に出席。協力医療機関は地域の子ども病院に協力してもらっている。	
毎月定期報告のメールを送っている。その他の問い合わせなど、必要に応じて連絡をしている。	
就学前の情報は、保育園や幼稚園には通わない場合が多いため、親御さんからヒヤリングするようにしている。	
対象児童なし	
外部の研修会などを通して助言を受けたり、子どもへの対応や問題行動の改善について専門家のアドバイスを児童支援員が受け支援が行われている。	
餅つき、駅伝、神社の掃除などの地域のイベントにも参加し、子ども問わず地域の皆さん老若男女と交流する機会がある。	イベント事を開催して自分たちで交流の場を作っていきたい
市内の福祉サービス事業所連絡会に出席して、情報の公開や収集を行うようにしている。	
定期的に保護者への連絡を行い情報共有に努めている。モニタリング面談を半年に一度行っている。	

<p>毎月行っているセラピーのに関する勉強会の情報共有を行っている。</p>	<p>参加者を増やしていきたい</p>
<p>利用契約締結時に重要事項説明書を用いて説明している。疑問があればその都度解消できるように相談に応じている。運営規定はプレイルームの壁に提示している。</p>	
<p>定期的に保護者への連絡を行い情報共有に努めている。モニタリング面談を半年に一度行っている。</p>	
<p>同意を得ている。</p>	
<p>定期的に保護者への連絡を行い情報共有に努めている。モニタリング面談を半年に一度行っている。</p>	
<p>保護者のみに特化した会は設けていないが、保護者も誰でも参加できるイベントを開催している。</p>	<p>保護者同士の定期的な交流の場もつくってきたい</p>
<p>苦情があった場合に備え、対応できる体制を整えている。保護者からの相談、要望の声は最優先に対応し、検討する。</p>	
<p>SNSを用いて、定期的に活動内容を発信するように努めている。</p>	
<p>職員は採用時に個人情報守秘義務同意書に捺印している。年に一度個人情報取り扱いに関する研修を行っている</p>	
<p>子どもの特性や保護者に配慮した意思疎通、情報伝達が行われるように職員への研修の場を設けられている。</p>	
<p>餅つき、地域の方の農作業の手伝いなど、招待され交流を行っている。</p>	<p>地域の方々を招待できるような行事を増やしていきたい</p>
<p>職員には、研修等を通して十分に周知がされている。保護者へは契約時に説明をしている。</p>	

災害時の注意点や行動は、訓練時の時のみではなく声をかけたりしている。半年に一度避難訓練が行われている。	
契約時に保護者に必ず子どもの状況確認を徹底している。	
通常食事の提供は行っていないが、飲食が伴う活動がある場合は、細心の注意を払うようにしている。	
職員全員が共有認識を持って支援が行えるように徹底している。	
定期的な保護者への連絡を行う際に、取り組み内容を伝えている。	
事例集の作成を行い、職員全員が共有認識を持って再発防止に努めている。	
委員会と研修会が開催され、職員が十分な理解を得ている。	
身体拘束は行うことはない。身体接触に際しても本人への同意と保護者への相談や同意が必須としている。	